

令和2年度

胎内市の学校教育



中条小学校



中条中学校



胎内小学校



きのと小学校



築地小学校



黒川小学校



乙中学校



築地中学校



黒川中学校

胎内市が目指す学校像

チームで歩む学校

- ～ 合言葉は、「子どもたちの笑顔のために」～
- ◇地域や保護者にも共有された「目指す学校像・子ども像」
 - ◇具体的な目標を示し、学校を引っ張るリーダーシップ
 - ◇「チーム」として、柔軟で機動的な組織
 - ◇同僚性・協働性のある教職員集団

豊かな学びのある学校

- ～ 落ち着いた学習環境で、すべての子どもの学びを支える学習指導～
- ◇意欲を引き出す授業づくり
 - ◇安心して学ぶことができる規律ある学習環境
 - ◇すべての子どもの学びを育む特別支援教育
 - ◇学校と家庭で育む学習習慣

コミュニティ・スクールでつながる学校

～ 「信頼」でつながり合う、学校・家庭・地域～

- ◇義務教育の9年間を見通した連続性のある指導
- ◇双方向性のある情報発信による家庭・地域との連携
- ◇日常的で定期的な学校間連携・交流
- ◇責任、分担、協力、支え合いのある家庭連携・地域連携

胎内市教育委員会



〔胎内市教育の基本理念〕

教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み



胎内市教育振興基本計画

健康な心身の醸成

1 スポーツや芸術・文化を楽しむ教育の推進

- ◆子どもの体力向上
- ◆生涯スポーツの推進
- ◆競技スポーツの振興
- ◆芸術・文化の振興

2 安全教育と健康教育の推進

- ◆防災教育の推進
- ◆健康教育の推進
- ◆食育の推進



豊かな人間性の確立

3 心豊かで広い心を持つ人材の育成

- ◆心豊かな人材の育成
- ◆家庭と地域が連携した社会性の育成
- ◆国際感覚を育む教育の実践
- ◆キャリア教育の推進



確かな学力の修得

4 学ぶ子どもの育成

- ◆学力向上への取組
- ◆学校運営の充実
- ◆特別支援教育の推進



ふるさとを誇りに思う人間の育成

5 ふるさとを学び、ふるさとをつくる教育の推進

- ◆ふるさと教育の推進
- ◆文化財の活用と保護

6 安全な環境教育の整備

- ◆安全・安心な教育環境の整備

7 活力あるコミュニティの形成

- ◆学びを通じたコミュニティの再構築
- ◆コミュニティ・スクールの充実



令和2年度 胎内市学校教育の重点

地域とともに歩む学校づくり

学力向上への取組

<成果目標>

- 「授業が分かる」と答える子どもの割合を95%（小学生）、90%（中学生）以上にする。

- ◆一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実
- ◆少人数指導などによる個に応じた指導の充実
- ◆家庭と連携した学習習慣の定着と生活習慣の改善
- ◆教員の指導力向上
- ◆胎内市教育相談体系化連携事業の充実

家庭と地域が連携した社会性の育成

<成果目標>

- 進んであいさつする子どもの割合を80%以上にする。
- 地域学校協働活動数を年間延べ380回以上にする。

- ◆毎月10日を「胎内市あいさつの日」とし、家庭・地域と連携したあいさつ運動の推進
- ◆地域学校協働本部体制を整備し、学校と家庭、地域が連携した各種取組の推進

キャリア教育の推進

<成果目標>

- 将来の夢や目標を持っていると答える子どもの割合を85%以上にする。

- ◆小・中9年間を見通した「ふるさとキャリア教育プラン」の推進
- ◆中学生の職場体験学習や「子どもハローワーク」の充実
- ◆「ふるさと体験学習」を中核とした郷土愛の育成

コミュニティ・スクールの充実

<成果目標>

- 学校運営協議会委員が「目指す子ども像」の具現化が図られたとする割合を80%以上にする。

- ◆学校と地域で課題・目標の共有
- ◆学校運営協議会と地域学校協働本部との連携・協働
- ◆「社会に開かれた教育課程」の実現

心豊かな人材の育成

<成果目標>

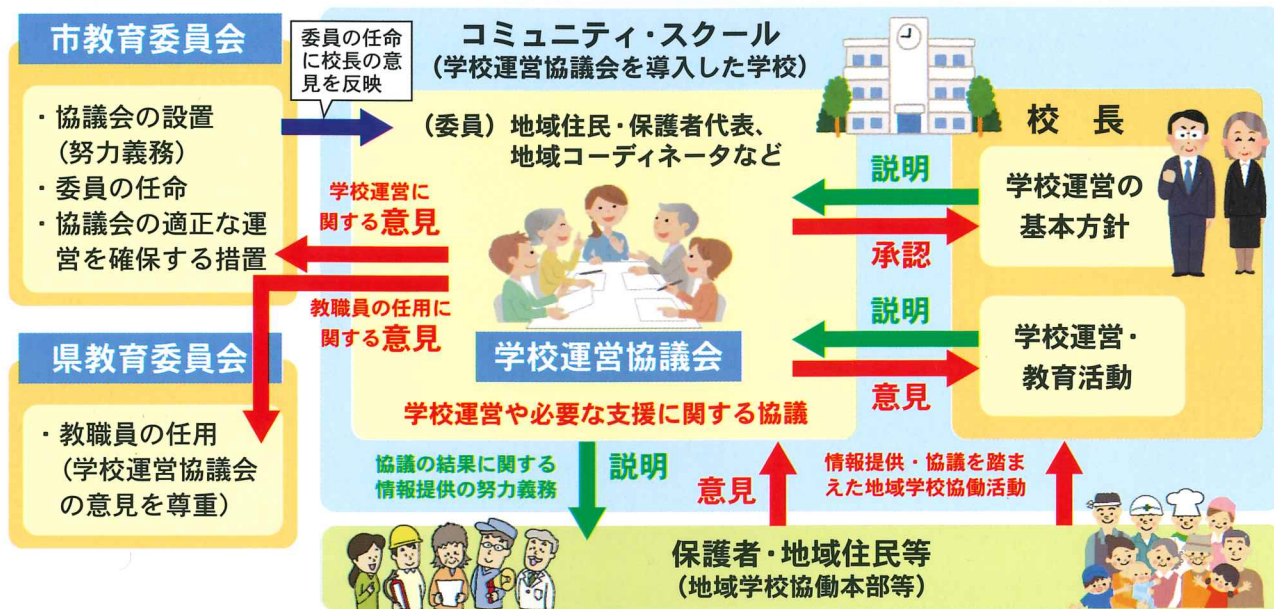
- いじめ見逃しゼロに向けて取り組むとともに、解決割合を100%にする。
- 昨年度（自校）の不登校（30日以上）の児童生徒の割合が減少する。

- ◆道徳教育や人権教育、同和教育の充実
- ◆「学校いじめ防止基本方針」に基づいた確実な取組
- ◆いじめの早期発見、即時対応
- ◆いじめ見逃しゼロスクール集会の充実
- ◆スクールカウンセラー等関係機関との連携
- ◆胎内市教育の日 9月26日（土）全小中学校での道徳の授業公開

コミュニティ・スクール

～「地域とともに歩む学校づくり」を目指して～
令和2年度より市内全ての小中学校がコミュニティ・スクールとなります！

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



Q コミュニティ・スクールを導入することで、どんな効果がありますか？

- A
- ① 学校は多様化、複雑化する課題等の対応策を、保護者や地域の皆様と一緒に考え、地域ぐるみで子どもを育む体制をつくることができます。
 - ② 保護者や地域の皆様が学校運営や教育活動に参画することで、学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなります。
 - ③ 多くの大人の専門性や地域の力を生かした教育活動が実現し、子どもたちの学びや体験が充実します。

Q コミュニティ・スクールは、具体的にどのように進めていきますか？

A コミュニティ・スクールの中核となる学校運営協議会において、「育てたい子ども像」等、学校運営の目標・ビジョンを共有します。その上で、学校と地域で具体的にどのように取り組んでいくかを考えていきます。例えば、市内のA中学校（コミュニティ・スクール）では、育てたい子ども像を「ふるさとを愛し、正しい心もち、主体的に行動する生徒」と設定し、学校運営協議会で共有しました。そして、具体的にどのように取り組んでいくかを検討し、「子どもに地域のよさを学ばせるにはどうするか」「地域の中で学べる体制や環境をどうつづけていくか」等が話題となり、学校と地域がともに子どもを育てていこうとする気運を高めることができました。

Q コミュニティ・スクールでは、保護者や地域住民は学校の教育活動にどのように参画できますか？

A 例えば、授業補助、読み聞かせ、職場体験学習支援、登下校の見守り、ふるさと学習、地域行事など保護者や地域住民の皆様には、学校の応援団として活躍していただくことができます。地域の皆様が、学校運営や子どもの教育活動へ参画することは、子どもたちの学びが充実するだけでなく、地域の皆様にとって、新たな活躍の場となり、やりがいにつながります。